

栃木県立美術館 令和2（2020）年度事業等評価

1 趣 旨

令和2（2020）年度県立美術館の運営について自己評価を行い、その結果を美術館評議員会に諮り、外部評価を実施した。なお、外部評価は平成28年に本格実施して本年度で5回目となる。

2 対象期間

令和2（2020）年4月1日から令和3（2021）年3月31日まで

3 自己評価総括

前年度の自己評価において不十分であった項目について、それぞれ目標値の達成に向けて取り組んだ。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、入館者数等目標値を大きく下回った項目や、引き続き対応の検討を進めるべき課題もあるが、コロナ禍の制約の中で意欲的に事業に取り組み、幅広いファン獲得に向けて努力しており、これらを総合的に勘案すると概ね適正な運営であった。

4 外部評価所見

令和2（2020）年度の美術館の運営状況については、概ね適正に運営されたと判断し、次の項目を意見とする。

① 学校教育との連携について

ICTの活用やギガスクール構想の導入により、学校の授業と美術館が双方向でつながる環境が整いつつあることをチャンスと捉え、学校に対して積極的に鑑賞教育等の提案を行ってほしい。

② コロナ禍における魅力発信について

コロナ禍であるからこそ、HPやSNSを活用した情報発信をより積極的に行うとともに、県民に美術館の魅力をどう伝えるか、デジタル技術の活用などを含めたさらなる工夫が求められる。



5 取り組むべき課題

- ◆ 学校教育と連携した鑑賞環境の整備
- ◆ 情報発信の強化・充実